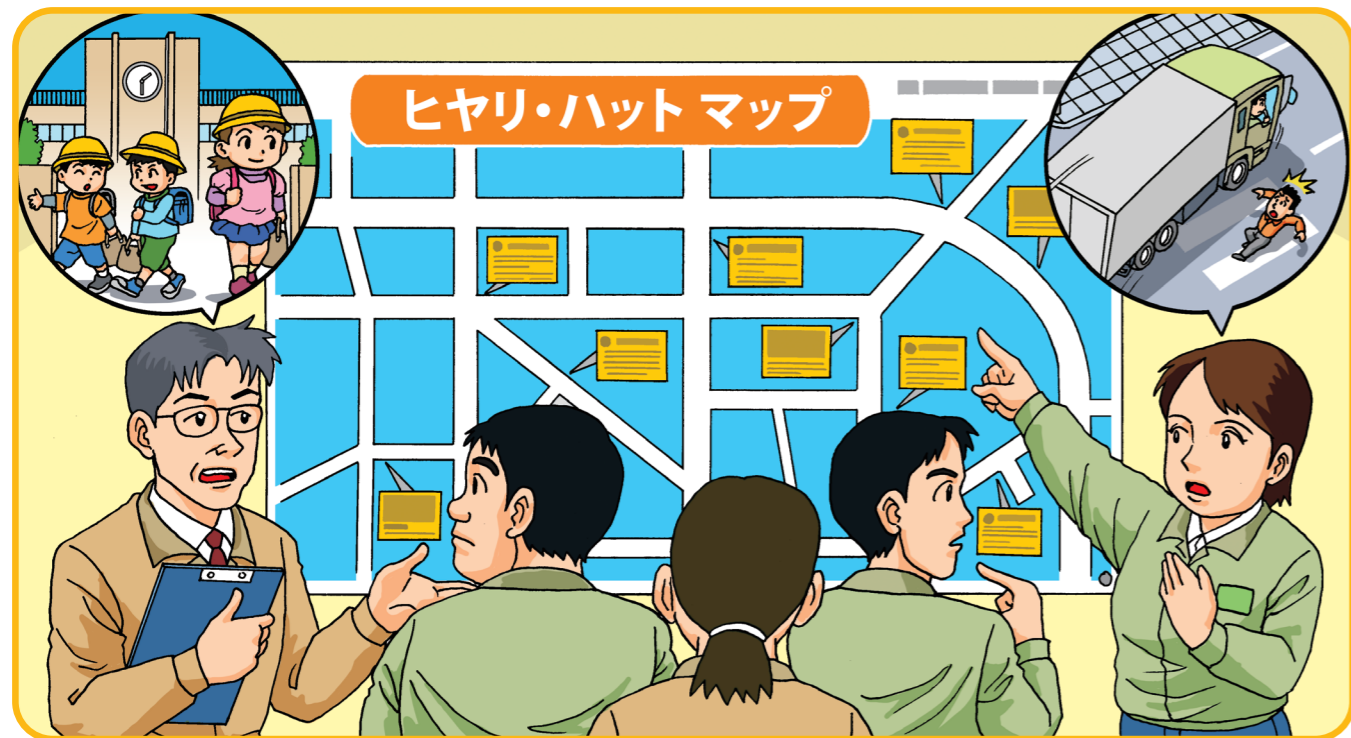




事前の環境整備 事故リスクの少ない ルートを走行する

防止する要因 危険な箇所



具体的な取組

- 特に事故リスクの高い信号あり交差点の右折を避けるよう、できる限り「右折」の少ないルートを走行する。
- 事故リスクの多いルートについては、危険箇所を報告・共有する。



このような状況下で 事故が起こる可能性があります。

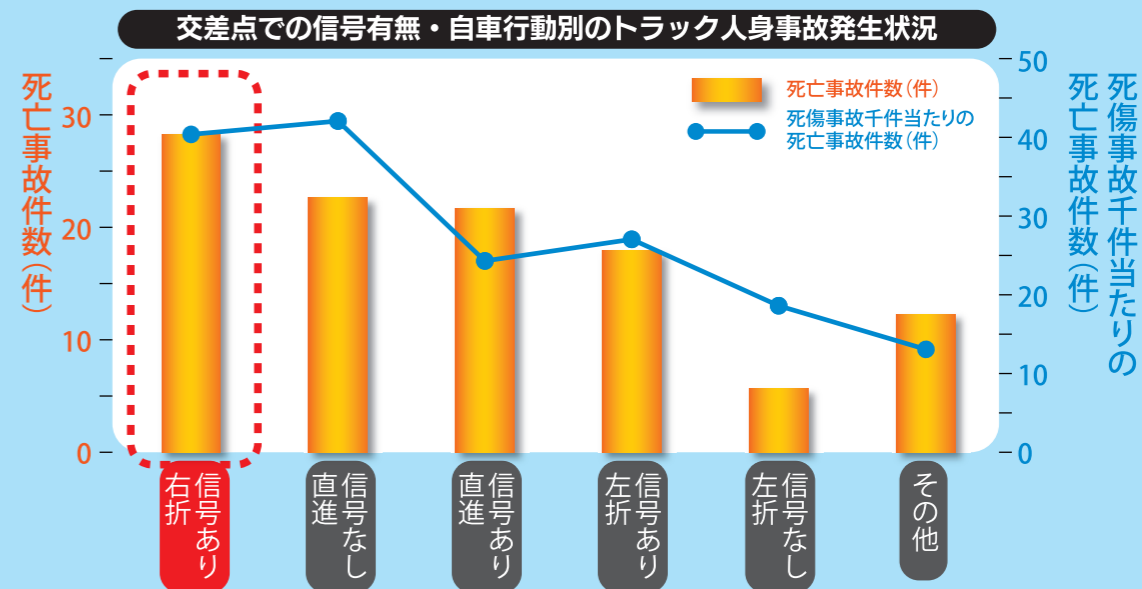
事故事例

- 大きな交差点を右折したところ、横断中の歩行者と接触した。
- 渋滞時を避けるために抜け道を走行中、見通しの悪い交差点で出会い頭に接触した。
- 事故多発交差点で、多発事故と同様の事故を起こした。

そのため、事故リスクの少ないルートを走行します。 具体的には、下記のとおりです。

具体的な取組

- 1 特に事故リスクの高い信号あり交差点の右折を避けるよう、できる限り「右折」の少ないルートを走行する。



【出所】平成 25 年に発生した事業用トラック（軽貨物除く）が第一当となる交通事故（公益財団法人交通事故総合分析センター）

- 2 事故リスクの多いルートについては、危険箇所を報告・共有する。

【取組例】ドライバーから集めた危険箇所に関する意見をもとに、自社のヒヤリハットマップを作成する。自社独自の情報として、デジタコやドラレコのデータ等を加えることも検討する。

参考 トラック交差点事故防止マニュアル～交差点事故撲滅キット～
<http://www.jta.or.jp/kotsuanzen/anzen/kousaten-jikobousi.html>

